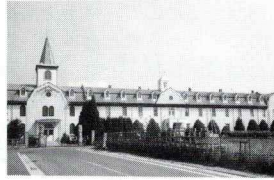


北辰

TOKYO

岐阜県立多治見北高等学校同窓会

東京支部会報 創刊第9号



平成7年10月1日

発行人 鈴木 満

最近の多治見北高校では……

多治見北高校校長 出村 昌慶

皆様方の母校多治見北高校は、昭和33年4月の開校以来、今年で37年目を迎え、卒業生数は12,000名を越えました。卒業生諸氏の活躍も目ざましく、一般企業はもとより、政官界や法曹界、教育界、新聞・放送界等において、活躍の報に接することが多くなりました。誠に、喜ばしい限りであります。周知のことですが、2回生の西寺雅也氏が、さきの多治見市長選挙で、見事に当選されました。

学校の近況を、いくつか報告します。

生徒数は、現在、全日制が1,087名、定時制が66名、学級数は、全日制が26学級、定時制が4学級です。全日制の男女比は、男子58%、女子42%です。職員数は、全定あわせて81名、岐阜県の高等学校では、大規模校に属します。

施設・設備面では、昨年度、図書室、音楽室、美術室が全面改装され、新築同然に生まれ変わりました。又、中舎屋上には、学校のシンボルとして、カリヨンベル付きタワーが完成しました。屋内体育館が、建築以来26年ほど経過し、傷みが目立ってきましたので、できるだけ早期の改築を、今後関係方面に要望していきたいと思っております。

65分授業は、今も続いています。多くの学校が1限50分授業をしている中で、本校は昭和45年度から導入した65分授業を、現在も継続しています。県内では、本校だけです。

進路関係の状況です。本校の生徒は、ほぼ100%が進学希望で、平成6年度卒業生の概況は、国公立四大が36%、私立四大が39%、短大が5%、専門学校が1%、浪人が19%といった状況です。合格延数では、国公立四大が170名、私立四大が620名、国公立短大が13名、私立短大が48名となっています。いわゆる合格困難な大学への合格者数を拾ってみますと、名古屋24、名古屋工業19、岐阜薬科4、静岡19、筑波6、京都1、大阪2、東京工業2、早稲田12、慶応6、東京理科10、南山73、愛知工業40、愛知33、同志社27、立命館30等となっています。

部活動は、進学校でありながら、体育系、文化系とも、極めて活発です。早朝や放課後の進学補習は、現在ではほとんどの高校が実施していますが、本校では65分授業を実施していることもあって、夏休み以外、ふだんの補習授業

は一切行っていません。その分、放課後の部活動が活発です。対外試合で成果をあげているのは、全国大会レベルで、ボクシング部、東海大会レベルで、ソフトテニス、軟式野球、陸上、水泳といった部です。

生徒会活動や学校行事への取組みも、極めて活発かつ意欲的です。今年の北辰祭では、2年生のあるクラスの「平和について」の取組みが、読売、朝日、中日、岐阜の新聞各紙で報道されました。

生活指導関係は、おおむね良好です。本校には、細かく規定した校則は、一切ありません。大まかな規定があるだけです。生徒の自律を願ってのことですが、ほとんどの生徒が期待通りである中で、時に厳しく注意せざるを得ない生徒もいるのが、昨今の状況です。好ましくない傾向になびく生徒がほとんどいないというのは、本校の特色といっていでしょう。

これからは、心の時代、心の教育の時代であります。学問的な賢さ・豊かさと同時に、人間的な賢さ・豊かさの育成にも、大いに力を入れたいと思っております。知・徳・体のバランスのとれた人間教育に努めたいと思っております。母校への変わりませぬ一層のご支援をお願いします。

いざボランティア いざ大阪へ!!

川人康代 (17回生・声優)

去年の夏、下血して救急車で運ばれ入院してからは、体と相談して動く毎日でした。ここしばらく体調がすぐれず、体は痛いし何もする気が起きない、といったうつうつとした日を過ごしていました。

病院の先生からは、体調の悪い時は、テレビでも見てゴロゴロして安静にしてくださいと言われるのですが、心が安静ではいられなくなります。体は動かない、心は動きたい。

そんな時、友人から「大阪の保育園と特別養護老人ホー

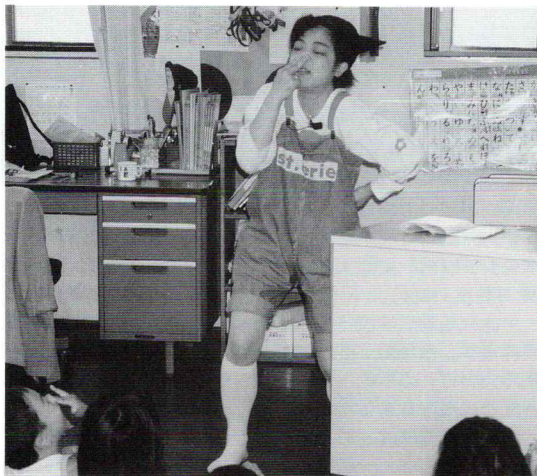
ムボランティアに行くんだ。」という電話がありました。自分の体はさて置いて、一緒に行きたいという思いがつのり、あくまでも体調、仕事優先でなければ一緒に行かせて/と約束しました。

その日が近づいてくるうちに、体調もなんとかかなりそうになり、また仕事も入らなかったので、さっそく彼女と打ち合わせをして、彼女のつくった人形と台本で、人形劇の練習をし、いざ大阪へととなりました。

そしてまずは、子供達の待つ保育園へ。

最初の保育園は3、4才児。皆、目をキラキラさせて、一生懸命お話を聞いてくれました。そして最後に軽い体操をして終わった時、子供達が、ワァーと寄ってきてくれて、やわらかい子供達の感触に感激。

でも、体操の説明をしている時、何人かの子がじーと立ったまま体を動かそうともしませんでした。わからない子は手をあげて言うと、体を動かさなかった何人かの子が手をあげました。その子供達中心に語りかけるように説明を始めると、表情が変わり、瞳が輝き出して一緒にやってくれま



した。んーこれは、ただ単に体操の動きがわからなかったんじゃないのか? 私に目を向けてほしいという子供の自己主張じゃないかと思いました。集団か個人か、楽しくもあり、むずかしさも感じました。

そして次の保育園は5才児。今度は前の保育園よりちょっと大人。1、2才しか違わないのに、この1、2才がすごいです。

私達の言うことや、お芝居の中にチャチャを入れる子がいたり。でも、それもおもしろく汗びっしょりになって終わりました。

まだ、結婚して2年目で、子供もなく、幼児保育とは何のかかわりもなかったのが、教えられることがとても多く感動的でした。

そして人形劇を終えたあと園長先生からも教えられたことがありました。今の子供達は人形劇やショーに慣れているので、声優さんだったら、かえって道具を使わないで生声で本を読んで、想像の世界へ子供達を連れていってほしいということでした。

最近はお話のCD、カセット、ビデオもたくさんある。でも道具を使わず人間がその場で共有する空間をもって、ワクワクするような世界へ行けることは少ないんだなと改めて考えさせられました。

そして最後は特別養護老人ホーム。その日は地域の夏祭り。歩ける人、元気な人は皆、お祭りに出かけて、残っているのは、車椅子の人、痴呆症の人など。



皆さんとても楽しみにして下さるとの事。子供達と同じ演し物で良いのか迷いつつ同じ物をする事にしました。

まず、ステージに立ってビックリ。保育園では、オレンジ色のトレーナーを着たエネルギー・バクハツの子供達を前にしていたのにここはすべて、白いんです。こんなにたくさんのおじいさんおばあさんをいっぺんに見るのははじめて。白く見えたというのは、おじいさん、おばあさんだから髪も白く、お陽さまにあたらぬから色も白い。それからパジャマや寝巻もやたら白っぽい。そして目はやさしく落ちついている、ということでした。

気を取り直して人形劇を終え、おじいさん、おばあさん全員と握手をしてまわりました。

そして、最後に歌を唄ったのですが、これは、予定外のことだったので途中で歌詞を忘れてしまい、「あー忘れちゃった。」と困っていると、一人のおばあさんが、「そのうち思い出すわよ。頑張って!!」と励まして下さいました。なんだかうれしくて笑ってしまい、そしてチョッピリ涙。

なごり惜しく終わったあと、園長先生が「皆さんの表情がイキキと動いたのよ、ありがとう。」と感激して下さいました。先程の励ましてくれたおばあさんの話をすると、「自分と同じだって思ったんじゃない。」と言われました。おばあさんは親しみをもってくれた、これで良かったとホッとしました。

それから、園長先生に老人ホームでのいろんなお年寄りのお話をうかがい、私もまた実家の85才になる祖母の話などして、とても充実した時間でした。

体調が悪く、家でうつうつとした日々がうそのよう。私にもまだ出来ることがあるんだ、自分が動き出せばなんて素晴らしい事と、人に会えることか。たくさんの方の勇気と自信、パワーと課題をもらったボランティア旅行でした。そして誘ってくれた友人、出会った人々に感謝しつつ興奮して東京に帰って来ました。

昨年にひき続き、東濃地方の今を、多治見、土岐、可児、瑞浪の在校生にそれぞれレポートしてもらいました。

であいの街、可児市

田中 梨恵

可児市には、やさしい自然を肌で感じられる場所がたくさんあります。やすらぎとうるおいの可児川、雄大なパノラマを誇る、鳩吹山遊歩道。そして一番の名所は、小淵ダム。昭和27年に日本で初めて自然の活用を考えたロックフィルダムとして完成しました。桜やつつじに秋の紅葉が美

しい人造湖です。とりわけ春の桜は素晴らしく、花見の名所として広く知られています。コイやフナなどの魚影も濃く、のんびりと釣を楽しむ人が多い所です。そのダムに架けられている木製のつり橋が小淵橋。周囲のコントラストも鮮やかで、訪れる人々のスナップ・ポイントとして最適です。

市民の憩いの場としては、県営可児公園があります。総面積74.6haの広大な敷地を誇り、その中にテニスコート・野球場・プール・芝生広場・日本一のバラ園・花のタワーなどの施設が充実しています。今年は花フェスタ会場となった市民の森も家族の憩いの場としておすすめです。

歴史を探るといふ点では、明智城址、西山謙之助生誕の地など戦国を巡って触れる、いにしへの跡があります。また、可児市は東濃地方でも有効の古墳の宝庫で、熊野古墳・巨大な長塚古墳をはじめ、たくさんの古墳がみられます。可児郷土資料館には、可児各地で出土した、縄文式土器から江戸時代の古陶器まで展示されています。また、安土桃山時代に芸術性の高い志野、黄瀬戸、瀬戸黒、織部などが盛んに焼かれていた太平古窯跡など、陶芸史上、歴史的発見である古志野陶片の発掘は、この可児の地下からでもあります。

四季折々に行われる、伝統の古来の祭りもとてよいものです。市内最大の祭りである「中恵土子守神社大祭」をはじめ、からくり人形、獅子舞が演じられる「久々利八幡神社大祭」や「白鬚神社流鏝馬祭」などなど。

このように可児市は、「訪ねる・憩う・探る・愉しむ」と4つの魅力をもっています。そして何と言っても、国の天然記念物、サクライソウ、シデコブシ、ヒトツバタゴ、カタクリなどの植物や、ハッチョウトンボ、ホタル、ギフチョウなどたくさんさんの事、物、生物に出会うことができます。可児市は人口も増え続けていて、住宅地も増えています。その中で、こんなに自然や歴史が残っているのは、素晴らしいことだと思います。これからもずっと大切にしていきたい。日常の生活から少し遠ざかって緑に包まれた豊かな時を過ごせばきっと自分らしさを再発見する事が出来ると思います。そして、たくさんさんの出会いが待っているでしょう。

緑豊かな土と炎と未来の都市 土岐市

大野 和枝

これは、土岐市のキャッチフレーズです。ご存知でしたか？

今年、土岐市は市制40周年をむかえました。昭和三十年二月一日、土岐市は誕生しました。それまでにあった、泉町、土岐津町、下石町、妻木町、駄知町、肥田村、鶴里村、曾木村の八ヶ町村が合併したのです。その後、土岐市は、美濃焼原産地として、陶磁器産業の振興とともに発展してきました。

とくに今年には40周年ということで、さまざまな記念事業が行われました。ここで少しだけですが、紹介したいと思います。

四月、セラトピア土岐で、大相撲土岐市場所が行われました。たくさんの方士たちでにぎわったそうです。そして今年も、ふるさと祭りが行われました。私も八月三日の花火を見に行きましたが、かなり盛大なものでした。

そして何とんでも私の心に一番残ったものは、『輝いて私のふるさと』という映画の上映でした。私の友達が出演しているということもあって、私はテレビで見ました。そのあらすじは、都会から両親の故郷、土岐市内の中学校へ

転校してきた女子中学生が、陶芸家の祖父や同級生、市民とふれあいながら一年間過ごす。明るくお茶目な少女は転校先の中学でも人気者に。同級生にちょっぴり恋心を抱きながら、市の施設見学や地域の伝統行事にも積極的に参加し、ふるさと土岐市を愛する、というものでした。一年が経って、少女が帰る時、自分達で作った美濃焼茶碗を持ち帰って行く、という物語の中で、うまく土岐市という町を紹介してありました。私はこの映画を通して、土岐市を理解してもらえばいいなあ、と思いました。

そして、今年、陶磁器試験場よりセラテクノ土岐(仮称)が建設されます。

今まで、陶磁器の試験だけのためにつかわれてきた所が、美濃焼産業の歴史などの展示、イベントを行うなど、いろいろなことに使われることになります。この施設により、より美濃焼についての理解が深められることでしょう。

その他、保健福祉センターの建設など、市民の健康と安全を守る施設も新しくなります。

こうして、少しずつではありますが、土岐市は発展しています。これから二十一世紀をむかえるわけですが、今後も私のふるさと土岐市が進化していくことを私は期待しています。

都市化が進行しています 多治見市

中村 聖

多治見市は今年市制55周年を迎え、新市長の西寺雅也氏のもと、東濃地方の中心都市として交通面、文化面でも大規模な工事をしている所が目につきます。しかしそれに伴い、あの豊かな森林が破壊され続けていることも忘れてはならないことです。

交通面では、一般国道248号(音羽町から大藪町まで)の未完成部分の北丘町から明和町を結び工事を行っています。今までの248号は可児市から北丘町までと明和町から多治見インターチェンジまででした。この2つをつなげて、248号は完成となるわけです。僕は248号が既に完成していたものとばかり思っていたので、この工事が始まった時は驚きました。工事を開始した今、早く完成することを望んでいますが、完成がいつになるかわからないということです。

文化面では今まで別々に建っていた図書館とその隣の社会教育センターの機能を合わせ持つ建物である生涯学習センターの建設が始まりました。この建物は平成8年12月完成、翌年4月オープン予定の地下2階地上8階建てになるようです。1階がロビー、2、3階と4階の一部が図書館、そして4階の一部と5、6、7、8階が学習室や音楽練習の場、工作・美術室などになる予定です。こんなにすばらしい建物ができれば多治見はもっとよい都市となるでしょう。しかし、元々図書館と社会教育センターがあった場所に建てるので、地下にできる駐車場は35台収容だそうです。少し少ないような気がします。この工事のため図書館は昭和町に移動され、平成9年の一月から三月にかけて生涯学習センターへ本の移動を行うということです。

図書館といえば我が北高の図書館にクーラーが取り付けられました。夏の間はもちろんです。これを機会に図書館の利用回数はますます増えることでしょう。また中舎の屋上には大きな鐘がつけられました。1日に数回しか鳴りませんが、いい音色をしています。

現在の多治見市は、まだ田畑がよく目立っていた頃とはずいぶん姿が変わり、交通面ではより便利に、文化面では

より豊かになりました。しかし、248号の工事で山ひとつが完全に平地となってしまう所もあります。また団地も森林伐採をして増えています。多治見市となる以前からある自然を都市化とひきかえに失うのはとても残念なことです。多治見は陶磁器の町ですが、美濃焼がタイルやニューセラミックといったものに应用されています。新しい美濃焼の活躍の場が広がることはよいですが、千数百年間の美濃焼の独特の姿を失ってははいけません。独特の形を残しながらさらなる発展を遂げねばなりません。美濃焼と同じでこの多治見市の姿も昔の面影がなくなるとはいけないと思います。僕はこの先何年たっても緑いっぱい、空気のおいしい多治見市であってほしいと思います。

自然、文化、交流を育む ときめきのまち瑞浪

小木曾素子

瑞浪市では、現在「自然・文化・交流を育むときめきの

まち瑞浪」というスローガンを設定し、平成16年には五万人都市を目指して活動を進めています。具体的には市民福祉、生活環境、都市基盤、教育文化、産業経済の5つが柱となっています。平成15年には地域福祉として市民センター跡地に、市民福祉センター「ハートピア」ができ、住民参加の地域福祉活動を推進しています。また、瑞浪市は名古屋市への通勤圏であるため、住宅開発が進められています。

こうした活動の反面、問題もあります。釜戸に産業廃棄物最終処分場が建設され、一時は土岐川の水も汚染されました。今また日吉に中間処理場ができ、その運転開始をめぐって地域住民が反対運動を起こしています。

日本は産業が発達し、これほど私達の生活も便利になったのですから、ごみの量が増加するのも当然だということとは分かります。しかし、そのしわ寄せが自分の故郷に来るというには納得できません。瑞浪市の長所の一つは、身近に豊かな緑があるということです。都市として発展するのでもいいですが、同時に自然の美しい町であってほしいと思っています。

第6回東京支部総会・懇親会のご案内

相変わらず、すっきりしない景気状況の中、職場で家庭で頑張っている東京支部の皆さん！ 今年の同窓会の御知らせです。懐かしい顔と触れ合い、大いに飲み語り楽しい一時を過ごして頂ける様、特別企画も用意しております。

お知り合いの同窓生に声を掛け、奮ってご参加頂けます様、お待ちしております。なお、今回の幹事は、6、16、26 (S41、S51、S61年卒) 回生ですので、よろしく、御願います。

【日時】平成7年11月18日(土)

- 総会 15:00~15:30
- フォーラム 15:30~16:30
- パーティ 17:00~19:00

【会場】芙蓉銀座クラブ8F

- 803/804/805号室 (総会/フォーラム)
- パーティ会場 1/2 (パーティ)

東京都中央区銀座2-2-2 西銀座ビル8F
(JR有楽町駅(京橋口)より徒歩3分の有楽橋交差点向い側右角の日本ダイナースクラブの看板のあるビル)

TEL03 (3535) 2441

【会費】一般7000円 学生4000円

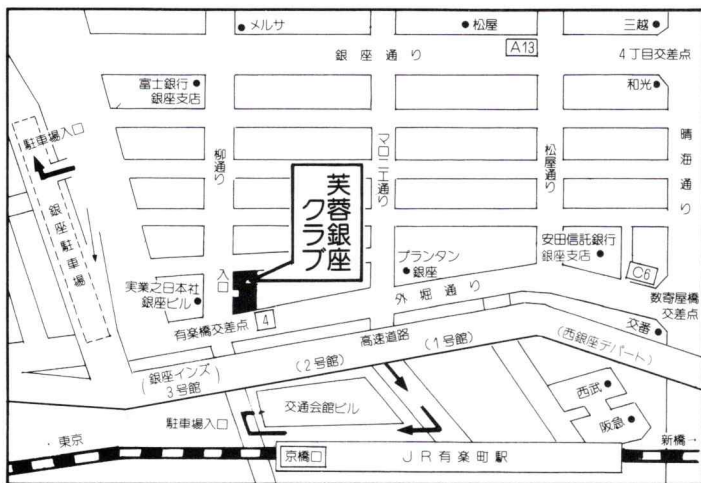
【講演会】今年のフォーラムは、皆さんの身近なテーマで講演会を行いますので、是非、多数のご聴講を御願います。

- テーマ 「食品と発ガン物質」
- 講演者 加藤哲太氏 (6回生)

東京薬科大学助教授

※総会には校長先生はじめ、大角先生、大嶽先生も出席される予定です。

※また、総会では最新の多治見北高、学校紹介のビデオも上映されることになっています。

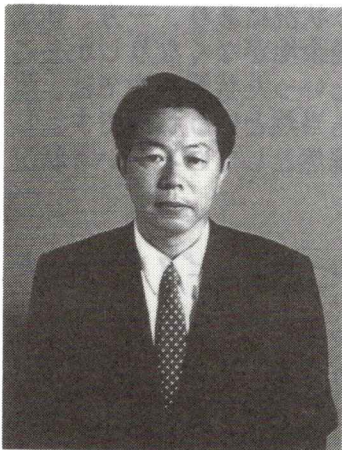


〒104 東京都中央区銀座2-2-2 新西銀座ビル6階(事務局)、7・8階(営業)

☎(03)3535-2441(代) FAX(03)3535-3128

西寺市長からのメッセージ

本年の統一地方選挙において、現職市長を破って多治見市長に当選された北高2回生の西寺雅也氏から東京支部へ『市長戦をいかに戦ったか、なぜ市長戦に立候補したか等々』のメッセージをいただきました。



本年4月23日に行われた多治見市長選挙で、5選をめざした現職市長を1400票の差で破って当選をしました。

私たちのスローガンは「多治見を変える」といもので、「まちを変える」と「行政を変える」ための政策を掲げて戦いました。（「多治見を変える」というスローガンはその後行われた美濃市、瑞浪市の首長選挙でも使われ、いずれも現状維持型の対立候補を打ち破ってしまいました。）その選挙戦は最初は本当にわずかな友人と市議の時代からの後援者で始めたものですが、日増しに支持者を獲得し、ついには選挙戦に勝利するという結果になりました。

なぜ、わたしのような組織を持たない（社会党、新党さきがけの推薦は得ていましたが）ものが勝てたのか、その中に多治見市の今の状況があり、地方の中小都市の抱えた問題がはつきりすると思いますので、多治見市や東濃西部地域の状況を含めてみなさんに報告しておきたいと考えます。

多治見市の特殊な状況として（大都市周辺の人口急増地域に共通したこともかもしれませんが）名古屋市及びその周辺の愛知県からの転入者によって、人口が4万人ほど増え、10万人を超える市になりました。財政の豊かな愛知県の公共サービスと多治見市、岐阜県のそれとのギャップが大きく、転入者からの要求は多種多様になっても、行政が応えられない、あるいは行政側は旧市街地出身者で占められているため、そうした要求を一方向的に拒否することが多い、といった問題がでてきました。一方、転入者、ことに女性たちによる文化活動やボランティア活動など、市民活動は日増しに盛んになり、活性化してきていても、その人たちの声は市政に反映しにくいということなども市民の中の不満としてあります。こうした古い行政の体質を変えたいという市民の気持ちが強かったこと、これがひとつの勝利の理由です。

行政と市民の間の、市民参加への回路がうまく作られていないか、機能しないという行政側の問題があります。（市長になってみて改めてみますと多治見

市の各種委員会の構成員は旧市街地のそれもごく限られたサークルの中からしか選ばれていないことにびっくりしています。みなさんの住んでいる自治体のことを調べてみるときっと同じことが行われていることがわかります。)

もうひとつは地方の中小都市の大部分はこのまま放置していると「まちが駄目になってしまう」という焦りに近い気持ちで市民がいるということです。多治見市でも地場産業である陶磁器産業は統計などでもはつきりと右肩下がりに、長期低落傾向をたどり、しかもこの不況によってかなりのダメージを受けており、商店街は郊外型ショッピングセンターや新設の幹線道路に沿った地域に立地する商店群に押され、苦戦を強いられているという状況にあり、一方、新規産業の導入などは住宅団地の開発が進んだため、開発余地がなくなりしかもこの間の第2次産業の衰退等で、断念せざるを得ないといった状態の中では、焦りがみんなの共通のものになってきているというのも当然という状態です。しかも、多治見市では都市基盤整備が遅れ、町の中は雑然としているという状況です。

ここにあげた大きな2つのことがわたしたちのスローガンとピタリと合ったことが勝利であったと総括しています。

就任後のことについて、お話できるスペースがありませんので、次号以下にそうした機会が与えられれば、多治見市政レポートとして書かせていただきたいと思えます。

これまでに実施したことは、応募した市民ひとりひとりと「市長と語る会」、課長補佐、係長クラスとの部毎の懇談会、バリアフリー、ノーマリゼーションのための市民委員会、エコシティのための市民委員会の設置、多治見駅にサービスセンターの設置、都市型CATV開設の検討委員会の設置、市職員採用の国籍条項の撤廃、幼稚園における3歳児保育の開始など主にソフト事業を中心に公約の実現を目指しております。

北高の卒業生のみなさんで、多治見をなんとかしようということで、ご意見があつたり、支援してやろうという方があつたら、是非ご一報ください。

多 治 見 市 長
西 寺 雅 也 (北高1962卒業)

連絡先

多 治 見 市 役 所 TEL 0572-22-1111 FAX 0572-24-3679
〒507 多 治 見 市 日 ノ 出 町 2-15